

にじ

新年のご挨拶2016

..... P2~7

古味勉企業長	P2
吉川清志病院長、森本雅徳副院長	P3
山下元司副院長・こころのサポートセンター長、島田安博副院長・医療安全管理センター長	P4
西岡豊副院長・地域医療センター長、森田莊二郎副院長・医療情報センター長	P5
西岡明人がんセンター長、山本克人循環器病センター長	P6
喜多村泰輔救命救急センター長、林和俊総合周産期母子医療センター長	P7
高知医療センター イベント情報	P8

1

JANUARY 2016 Vol.123

謹賀新年 甲



新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。みなさまに多くの福が舞い降りますように。

高知医療センターの理念　－ 医療の主人公は患者さん －

謹賀新年

申

新年のご挨拶

2016



企業長 古味 勉



新年あけましておめでとうございます。

皆さんには、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は高知医療センター開院10周年という節目を無事に迎えることができました。これもひとえに高知医療センターを信頼して治療に来てくださる地域の皆さん、医療に関わる各機関や団体、運営に関わってこられた皆さまのご支援・ご協力のおかげと心から深く感謝申し上げます。

さて、平成25年度から検討を進めてきました新がんセンターの整備については、昨年秋に着工した建築工事が順調に進んでおります。新がんセンターは高齢化の進行に伴い、今後も増加が見込まれるがん患者の皆さんに対して、地域がん診療連携拠点病院としての診療機能や、相談支援などのサービスをさらに充実させる期待の施設です。本年は平成29年度のオープンに向けての準備を着実に進めてまいります。

一方、少子高齢化が進む中で医療を取り巻く環境も年々厳しさを増しています。国においては医療介護総合確保推進法を制定し、団塊の世代が75歳の後期高齢者となる2025年を見据えての医療提供体制の改革を進めることとされており、高知県においても平成28年度には医療介護総合確保推進法に基づく地域医療構想の策定が予定されています。

こうしたなかで、高知医療センターにおいても新公立病院改革プランとして新たな中期計画を策定し、将来を見据えた病院の在り方・経営戦略をまとめていくことにしています。

「医療の主人公は患者さん」との理念のもと、住民の皆さんに信頼される良質で高度な医療を提供することを目指していくことに変わりはありませんが、関係機関の皆さんとの連携をさらに強化し、変化への的確な対応とさらなる進化を目指して、これからも努力を重ねてまいりますので、本年も高知医療センターをどうぞよろしくお願ひいたします。

結びに、本年が皆さんにとりまして幸多い年となりますことを祈念しまして、新年のごあいさつといたします。





病院長 吉川 清志



平成28年、明けましておめでとうございます。

高知医療センターは、昨年5月31日に尾崎高知県知事と岡崎高知市長をお迎え

し、医療・大学・行政など関係の皆さまの出席を賜り、ボランティア、委託企業、企業団職員の方々とともに開院10周年を祝いました。開院後、私たちはドクターヘリの導入、こころのサポートセンター新築、SCU新設、NICU増床、CCU改装、TAVI手術開始、高機能MRI等の機器購入などの新たな機能を加え職員を増員し、医療の質および患者サービスの向上に努め、当院に求められている癌・救急・災害・周産期・感染などをはじめとする総合的医療を着実に行ってまいりました。これはひとえに県内の医療機関その他関係各位のご協力のおかげであり、改めて感謝申し上げます。今後は平成29年度にオープンする新がんセンター新築をはじめ、無菌室の増設、ICUの高機能化、入退院支援センター(仮称)の開設などを予定しております、「医療の主人公は患者さん」を理念に更なる

前進を続けてまいります。

さて、少子高齢化が進行する我が国において医療費を含む社会保障費の増加に対して、平成26年6月に「医療介護総合確保推進法」が公布され、それに基づき高知県は地域医療構想を策定します。将来の医療需要の予測を基に各医療機関は、自院が高度急性期、急性期、回復期、慢性期のどの機能を担うかを決定し、その機能を確保するための自主的な取り組みが求められています。当院は高度急性期・急性期機能を担いますが、高知県では回復期病床が少なく慢性期機能を担う療養病床が人口当たり全国一多いため調整が必要です。最終的には、それぞれの機能を持つ病院と在宅医療・介護の連携により、一人ひとりの患者さんに最適な医療・介護が切れ目なく効率的に提供されねばなりません。キーワードは機能分化と連携であり、理想はその通りですが問題は山積しています。しかし、何とかオール高知で一致協力して策定しなければならない国から示された課題です。

とはいっても、何をするにしても基本は心身の健康です。皆さんも私たちも健康維持に努め、高知家の目標である「日本一の健康長寿県」を実現させましょう。

本年もどうぞよろしくお願ひします。



副院長 森本 雅徳



謹んで新年のお慶びを申し上げます。

当院は開院後10年を過ぎ、駐車場の樹木だけではなく、病院も

少しずつ成長を遂げてまいりました。これはひとえにこれまで高知医療センターを支えていただいた皆さま方のおかげであり厚く感謝申し上げます。ハード面では、こころのサポートセンター、ドクターヘリ駐機場、リハ訓練室、ハイブリッド手術室、HCU・SCUなど必要な診療機能に対応できるように建物の改修や増設が行われてきました。ソフト面でも、医師だけではなく、看護師、ケースワーカー、リハスタッフなどのコミュニケーションスキルも少しずつ増員してきました。平成21年から導入を開始した医師事務作業補助者(医療秘書)は、現在44名となりました。開院当初、スタッフ、特に医師にかかる負担は非常に大きいものがありました。医療秘書を各科に配置したことにより、医師への負担はある程度少なくなったように思います。しかし、まだ多くのスタッフが時間外勤務をせざるをえない

状況にあり、さらに改善が求められている状況です。

卒後臨床研修においては、昨年、臨床研修管理センターを開設し、研修体制の強化を図りました。研修体制も一定充実してきたことで、今年は、NPO法人卒後臨床研修評価機構(JCEP)の機能評価を受審することで、当院における臨床研修をさらに充実させたいと考えています。

ベッドコントロールにおいては、時に満床等でご迷惑をおかけしているところですが、一定の余裕をもったベッドコントロールを行うことで、できるだけ多くの患者さんを受け入れられるようにしていきたいと考えています。このためには、地域の医療機関の方々のご理解・ご支援が欠かせません。当院は、地域の医療機関の方々の支えにより成り立っています。今年もこれまで築いていただいた連携をさらに強固なネットワークとして発展させたいと念じています。

この一年が皆さまにとって明るい年となりますことを祈念申し上げ、新春のご挨拶とさせていただきます。今年もどうかよろしくお願ひいたします。





副院長・こころのサポートセンター長 山下 元司

新年明けましておめでとうございます。こころのサポートセンターは開設して、もうじき満4年となります。成人精神科入院フロアが休床になっていますが、医師を確保して成人が精神科に入院出来るようにしたいと思います。

原稿執筆段階で決まっていませんが、派遣元からまんざらでもない気配を知らされていますので、なんとかなるのかもしれません。

この3年間は精神科外来は制限して、病院本館に入院した精神障害者の治療にあたりました。もともと精神障害のある方が身体の病気で入院することもあれば、これまで問題がなかった方が入院を契機に精神科的問題をおこすこともあります。また高齢者の入院も多く、認知症のために入院生活になじめない方も沢山います。いずれのタイプの精神障害に対してもきちんと精神科的な対応がとれることができ、高知医療センターの医療水準の高さを示すものだと考えます。

成人精神科病棟再開の課題は、県立精神科病院としての役割です。これには措置入院患者、夜間の精神科救急患者の受入れがあります。これは軽装備の現体制ではなかなか困難です。二番目の問題点は職員の習熟度に応じた、適正な入院患者数の維持です。少しでも空床があるとなかなか断り切れません。他の診療科も開設時にそうした危機を乗り越えてきたのではありますが、精神科の2度目の崩壊だけは避けたいと考えています。

児童精神科は順調に業績を伸ばしています。入院についてはある時期10人近く入院したこともありますが、子供たちは協調性が育っていないので、集団行動が出来なくなりました。我々のお手本である県立宮崎病院のように児童の入院数は4人程度するのがよさそうに見えます。

児童精神科の課題は、外来患者が増え続けることです。新患の待ち月数の短縮を求められながら、診察枠は空いていません。児童精神科医が考える時間を持ち、やりがいも持てるよう、医療以外の仕組みの協力が必要かもしれません。



副院長・医療安全管理センター長 島田 安博

新年明けましておめでとうございます。

2014年7月に赴任して以来、がん化学療法の体制整備を目指し

て、外来ケアルーム看護師、薬剤師とともに活動してまいりました。おかげさまで、院内、外からのご紹介も着実に増加しております。2014年10月と2015年10月の比較では、外来患者数は251名から397名に増加し、年間では4,500名程度になりそうです。ご紹介いただきました医療機関の先生方にあらためて感謝申し上げます。

進行癌や高齢患者の増加、高騰する医療費など、がん治療に伴う課題はなかなか解決しません。今年も、がん治療に関わる診療科、外来ケアルーム看護師、薬剤師、MSW、癌相談員の多職種が協力して最善の治療を提供できるよう努力したいと考えております。

地域におけるがん治療、緩和ケア、在宅医療は、現

実的にはそれぞれの地域で最善のモデルを構築していくしかありません。患者さんの人生観やご家族の気持ちを汲んで、『はちきん・いごっそう』のための納得できるがん治療を目指したいと思います。

新がんセンターも昨年11月に地鎮祭を行い、現在病院西側で工事が本格的に始まりました。昨年は杭打ちデータ改竊が問題となりましたが、患者さん、医療者の期待にそえる新がんセンターとなるよう、しっかりと地面深く基礎工事が進められています。本年は、ソフト面での運用方針策定や職員確保が大きな仕事になります。十分吟味した新がんセンターですので、診療環境は最高に整備されていますが、提供する医療も負けないくらいの高品質のがん医療を目指して、十分に準備を行う予定です。是非ともご期待ください。

本年も、スタッフ一同新たな気持ちで頑張ります。何とぞよろしくお願い申し上げます。





副院長・地域医療センター長 西岡 豊



明けましておめでとうございます。皆さますこやかに新春をお迎えのことと存じます。

日頃は、高知医療センターとの医療連携にご理解とご支援を賜りまして、厚くお礼申し上げます。

昨年の4月より副院長を拝命し、地域医療センター長を併任しつつ、新年を迎えるました。副院長としての責務がどれだけ果たせたかははなはだ疑問ではあります、地域医療センター長、さらに消化器外科医として、忙しい一年を送ることができました。

当院の消化器外科は、手術数では、中四国の各大学病院等を含めた医療機関のなかで、肝胆膵領域では第1位、消化管領域(胃と大腸)でも第3位の症例数を誇っております。現在、県内の消化器外科医の減少のなかで、地域の医療機関との連携も模索しながら奮闘を続けています。

また、地域医療センターは、新中期計画に基づくアクションプランでの取り組みとして「院外連携の強化」を挙げており、「紹介患者を断らない受入体制」、「地

域資源とのネットワークの強化」等の6個の実施施策を立て、取り組んでおります。さらに昨年より、「顔のみえる」連携を一步進めた「より信頼関係が構築された」連携を目指して、新しい連携強化の取り組みを開始しました。また、昨年末には、当院の地域医療センター内の「まごころ窓口」と「地域連携室」の一体化も行い、将来の入退院マネジメントの強化を想定したセンター機能の構築を目指しています。

そして、昨年も地域の医療機関の先生方のおかげで、地域医療支援病院として、紹介率・逆紹介率ともに高い水準を維持できました。

本年の診療報酬改定の基本的視点として、特に「医療介護総合推進法」に基づき進められている医療機能の分化・強化、連携と地域包括ケアシステムの構築に重点を置くという方向性も示されており、このような地域医療連携の変化のなかで、今年も地域医療支援病院のなかの地域医療センターとして、さまざまな活動のなかで、地域の医療機関から顔の見える開かれた地域医療センターを目指して精一杯の努力を重ねてまいりたいと考えております。また、副院長として、吉川病院長をサポートし、発展、改善を続ける病院づくりを目指して頑張りたいと思います。旧年中と同様、今年もご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



副院長・医療情報センター長 森田 荘二郎



謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年4月より、副院長・医療情報センター長を拝命しております。さて、医療情報センターは、病院全体のあらゆる情報を一元管理し、①統合情報システム(電子カルテシステム: IIMS)の管理・運用、情報セキュリティの保守管理、くじらねつの運営管理、高知ICT連絡協議会のネットワーク構築等を含めた「システム管理部門」、②診療データ・経営データ・DPCデータ・パスの管理・運用を含めた「診療情報管理部門」を両輪として業務を行っております。

デジタル環境は、機器の使いやすさと安全性が相反するため、セキュリティを強化すると、診療現場からの不満が出ることがあります。昨今報道されている患者情報の漏洩などはあってはならないことです。今後も厳格なセキュリティポリシーを持って、情報漏洩、ウィルス感染等の防止にあたってまいります。

一方、すべての診療行為はカルテに記載されて、

初めて診療報酬支払いの根拠となるというルールに則り、算定根拠のある記載が行われるよう、また、連携施設の皆さまのお目に触れても恥ずかしくない、かつカルテ開示請求にも耐えうる質の高い診療録が作成されるよう指導を行ってまいります。

病院では、診療データ、病院経営に関連するデータ、学会への症例登録データ(NDB、院内がん登録等)など、毎日大量のデータが発生します。単に生のデータが増えるだけでは病院にとって何ら価値はありません。これらのデータを用途に応じて正確に抽出、加工し、評価・分析することで、診療上にも、経営上の戦略・戦術決定にも貢献するとともに、患者さんの安全を守り、病院および地域の医療の質の向上を計る一翼を担っていくべく、一層の努力を続けていかなければならぬと考えております。

今後とも、病院の縁の下の力持ち的存在としての「医療情報センター」を知っていただくとともに、患者さんの安全を守り、病院の医療の質の向上、および経営支援に貢献しうる組織に育つよう、研鑽を重ねてまいりますので、今年度も引き続き温かいご支援、ご指導をいただきまますよう、お願い申し上げます。





がんセンター長 西岡 明人



新年明けましておめでとうございます。旧年中は高知医療センターがんセンターに対しまして格別のご厚情を賜り、

誠にありがとうございました。昨年4月から、縁あって高知医療センターの一員に加えていただき、森田現副院長の後任としてがんセンター長を拝命して9ヶ月が経ちました。この間大過なく初めての新年を迎えることができましたのも、ひとえに関係各方面の方々のご協力とご支援の賜と感謝しております。

高知医療センターは、2006年6月に制定されました「がん対策基本法」に則った体制の構築に努め、2008年2月に高知県で初めての「地域がん診療連携拠点病院」の認定を受けました。がんセンターでは地域がん診療連携拠点病院として、また、高知県におけるがん治療の最後の砦としての使命を全うするべく診療体制の充実に努めております。その中でも最近のトピックスの一つは、2017年度のオープンに向けた「新がんセンター（仮称）」の整備であります。具体的

には診断機能向上のために新規にPET-CTを導入し、治療機能向上のために2台の高精度放射線治療装置を更新および新規に導入するとともに外来がん化学療法室の充実を図る予定です。また癌患者さんへのサービス向上を目的として「がん相談支援センター」と「がん患者サロン」および「緩和ケアセンター」の充実を予定しております。昨年11月には建築主体工事の起工式が執り行われ、今まで紙の上でのみの構想であった新がんセンターが、具体的な“建物”として眼に見えるものになりました。またPET-CTや高精度放射線治療装置の機種選定も順調に進んでおり、今年度中には終了する見込みです。

このような新がんセンターの整備を含めて、これからもより高度で充実したがん診療を提供できるように頑張っていく所存でありますので、県民の皆さま方、医療機関の皆さま方をはじめとする関係各方面の皆さま方には今年も変わらぬご支援を高知医療センターとがんセンターに賜りますようよろしくお願い申し上げます。



循環器病センター長 山本 克人



新年明けましておめでとうございます。旧年中は当循環器病センターに対し深いご理解と温かいご支援をいただき

き、誠にありがとうございました。

循環器病センターの大きな使命は、迅速で高度な救命医療や高度先端医療を提供することであると考えております。この点は、救命救急センターのご協力もいただきながら良好な成果を上げることができてあります。県民の皆さまの「命の砦」としての大きな役割を果たすことができているものと自負しております。さらに昨年11月にはCCUの改修工事が実施されました。医療者にとって使いやすくなり、またモニターの配置なども工夫し安全性の向上も図られています。ますます循環器救急医療を充実したものとできるCCUとなっているものと思われます。

さて、昨年1月からは経皮的大動脈弁移植術(TAVI)も開始され、徐々に経験が積まれ軌道に乗ってきたものと考えます。この治療法では、特にチーム

医療の重要性が再認識させられました。内科、外科医師だけではなく、コメディカルを含めたスタッフ皆が、十分にカンファレンスを行い、情報を共有し、チームとして術前から退院まで治療に参加しています。このことは他の診療にもきっと波及するはずで、今後当センターが高度で安全な医療の提供を行ううえで非常に役に立つことになると考えております。

循環器病センターをこれまで引っ張ってくださった岡部学前センター長が12月に退職され、私自身はやや心細くなった感もあるのですが、反対に若い力がどんどん育ってあります。今後も、当センターの4つの特徴である(1)チームによる最適な循環器医療の提供、(2)迅速で高度な循環器救急医療の提供、(3)体に優しく安全な循環器疾患治療の提供、(4)高度最先端医療の提供をさらに発展させ、スタッフ一同でチーム一丸頑張ってまいりたいと思います。本年も循環器病センターにさらなるご支援を何とぞよろしくお願ひいたします。



＊ 救命救急センター長 喜多村 泰輔 *



謹んで新年のお慶びを申し上げます。平素より当救命救急センターの救急業務・高知県ドクターへり運航に格別のご配慮を賜りあらためて御礼申し上げます。

さて、高知県における救急患者搬送数は増加傾向にありますが、これにともない当院での救急患者さんの受け入れ件数も少しづつ伸びてきているという状況です。

緊急時は病態と処置に追われ、救急患者さん一人ひとりの背景に気づけないことがあります。しかし、救急患者さんだからこそ、患者さん一人ひとりと向き合って治療することが重要だと私たちは考えます。それぞれの患者さんにどのような治療を選択し、病状改善後の転院先や自宅への退院、その後の社会復帰等を見据えた治療を行いたいと考えています。

また、一方で昨年度は先生方から紹介いただいた救急患者さんや救急隊からの受け入れ要請に迅速に対応できるように病院全体で病床の確保に積極的に

取り組みました。少しずつですが紹介患者さんをお断りすることなくスムーズな受け入れが可能となっていました。緊急を要する患者さんがおられましたらぜひご紹介くださいませ。

次にプレホスピタルケアについてです。外傷患者さん、脳卒中やACS(急性冠症候群)などの特に急を要する患者さんに対して、ドクターヘリやFMRC(First Medical Response Car: 医師搬送緊急車両)をもつて医師を現場に投入しています。プレホスピタルから治療を開始し、病院到着から根本治療までの時間(緊急手術・rt-PA投与・血栓除去等を実行するまでの時間)を1分でも1秒でも短縮できるようにシステムを再構築してまいりました。これにより、現場救急隊→プレホスピタル派遣医療スタッフ(ドクターヘリ)→救急外来→専門治療チームへのシームレスな治療が可能となりました。本年も立ち止まらずに時間短縮を図り、患者さんの予後改善を目指します。

いろいろと述べてまいりましたが、地域の救急医療の要となれますよう地域に根ざした救命救急センターとして、基幹災害拠点病院として、本年も努力をしてまいります。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。



＊ 総合周産期母子医療センター長 林 和俊 *



新年あけましておめでとうございます。皆さんにおかれましては、つつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げ

ます。旧年中は総合周産期母子医療センターの運営に関し多くの方々のご支援、ご協力を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。

当院の分娩件数増加により、ハイリスク妊娠の受け入れが困難となつたため、一時、厳しい分娩受け入れ制限を実施しましたが、昨年6月には、産科病床およびNICU、GCU病床の増床が完了し運用を開始しております。我が国では年々少子化が進んでいますが、ハイリスク妊娠は増加しています。それを裏付けるように当院の分娩件数も増加し、増床運用開始後も産科が満床となり、他病棟に転棟をお願いすることが時々あるため、本年はつわりや切迫流産で点滴や安静が主体の入院の方は、近隣の産科施設での入院をお願いすることを検討する必要があるかもしれません。また、近年、不妊治療後に限らず、多胎妊娠症例

が増加しています。多胎妊娠の一番のリスクは早産ですが、早産に至ると、一度にNICU病床は2~3床が埋まり、長期にベッドが占有されることになりますので、産科、小児科の連携が重要で、また多胎を分散するよう地域周産期センターである高知大学病院との連携も更に進める必要があると考えています。

当センターの位置づけは、高知県周産期医療の要(かなめ)であることを認識しています。県内の産婦人科診療施設と連携し、症例をトリアージし、ハイリスク母体の搬送受け入れやそのコーディネート、新生児搬送受け入れ、新生児外科疾患の手術など高知県で可能な限り周産期医療が完結することを目指しています。昨年は医療安全の視点を見直すため、周産期医療に関わる職員を対象に「チームSTEPPS」の研修を行いました。安心と安全を基本に、「高知家」の未来を担う大切な赤ちゃんの命を守り、そして赤ちゃんのご誕生を待ち望んだご家族に一層の幸せが訪れますよう、スタッフ一同、その役割を果たしてまいりますので、本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。



月	日	曜	高知医療センター イベント情報							
1月	17	日	高新区・高知医療センターがんセミナー・2015 (参加費要・事前申込要)							
			内 容	甲状腺がんについて	場 所	高新区文化教室(RKC高知放送南館3階37号室)				
			講 師	高知医療センター 乳腺・甲状腺外科副医長 大石 一行	時 間	10:30 ~ 12:00	対 象	一般(40名)		
			お問合せ: 高新区文化教室 TEL:088(825)4322 受講料 1,500円/1回							
	17	日	第9回 高知県がんフォーラム (参加費無料・事前申込不要)							
			内 容	基調講演:生きている喜び～末期ガンからの生還～ 講演Ⅰ:大腸がん治療の最前線 講演Ⅱ:肺がんの外科治療～なぜ手術したすべての人が治らないのか～ 講演Ⅲ:体だけじゃない、気持ちも大切にケアします ～がんの心のケアって何をするの?	場 所	高知県立県民文化ホール(高知市本町4丁目3-30)				
			講 師	基調講演:俳優 小西 博之 氏 講演Ⅰ:高知大学医学部附属病院 がん治療センター長 小林 道也 氏 講演Ⅱ:高知赤十字病院 第二外科部長 谷田 信行 氏 講演Ⅲ:高知大学医学部附属病院がん治療センター 緩和ケアチーム 掛田 恭子 氏	時 間	13:00 ~ 16:00	対 象	一般(1000名)		
			お問合せ: RKC高知放送 営業推事業部 TEL:088(825)4235							
	20	水	高知医療センター看護局集合研修 他施設公開研修 (参加費無料・事前申込要)							
			内 容	スキンケア4 褥瘡を治すケア	場 所	高知医療センター 1階 研修室2・3				
			講 師	高知医療センター 皮膚・排泄ケア認定看護師 竹崎 陽子	時 間	17:30 ~ 18:30	対 象	看護師(20名)		
			参加ご希望の方はお問合せください お問合せ: 高知医療センター 看護局 教育担当(藤原、野田、藤本) TEL:088(837)3000							
2月	13	土	高知医療再生機構 小児科専門医養成支援事業 協力科の先生に学ぶ 第2回 (参加費無料・事前申込不要)							
			内 容	小児科医にも知っていたい 小児の口の発達と摂食嚥下障害	場 所	高知医療センター 2階 くろしおホール				
			講 師	朝日大学 副学長・歯学部教授(小児歯科学) 田村 康夫 氏	時 間	15:00 ~ 16:15	対 象	医療関係者		
			お問合せ: 高知医療センター 小児科 西内 律雄 TEL:088(837)3000							
	20	土	第6回高知医療センター看護実践発表会 (参加費無料・事前申込要)							
			内 容	テーマ:その人らしい暮らしを支える看護の輪 特別講演:今、大きく変わる地域包括ケアの時代へ ～看護が果たす役割～	場 所	高知医療センター 2階 くろしおホール				
			講 師	高知県立大学 看護学部 教授 森下 安子 氏	時 間	13:00 ~ 16:30	対 象	医療関係者		
			参加ご希望の方はお問合せください お問合せ: 高知医療センター 看護局 教育担当(藤原、野田、藤本) TEL:088(837)3000							
	21	日	高新区・高知医療センターがんセミナー・2015 (参加費要・事前申込要)							
			内 容	膵臓がんについて	場 所	高新区文化教室(RKC高知放送南館3階37号室)				
			講 師	高知医療センター 消化器外科医長 岡林 雄大	時 間	10:30 ~ 12:00	対 象	一般(40名)		
			お問合せ: 高区文化教室 TEL:088(825)4322 受講料 1,500円/1回							
	27	土	第37回(平成27年度第4回)高知医療センター 地域がん診療連携拠点病院 公開講座 (参加費無料・事前申込不要)							
			内 容	テーマ1:大腸がん「大腸癌外科治療の最前線」 テーマ2:婦人科がん「子宮頸がんについて」 テーマ3:整形のがん「軟部腫瘍いわゆる「しこり」について」	場 所	サウスブリーズホテル 2階「アニエス」(高知市農人町5-29)				
			講 師	高知医療センター 消化器外科・一般外科医長 寺石 文則 テーマ2: 同 婦人科医長 山本 寄人 テーマ3: 同 整形外科医長 沼本 邦彦	時 間	14:00 ~ 16:30	対 象	一般(150名)		
お問合せ: 高知医療センター 経営企画課 TEL:088(837)3000										
※第19回高知医療センター 内科症例報告会も2月に開催を予定しております										

※時間等、変更になる場合もございますのでご了承ください。みなさまのご参加を心よりお待ちしております。

編 集 後 記

今年はさる年。2004年のはさる年は北島康介がアテネで「チョー気持
ちいい」と叫び、映画「世界の中心で愛を叫ぶ」が公開された年。2004年、
皆さんはどこで何と叫んでいたのでしょうか。また、この年は中越沖地
震が起きた年だと。地震のことはとても気になりますね。さる年
のはさるは「申」と書きますが、この字は「樹木の果実が熟して固まっ
ていく様子」を表しているそうです。昨年は開院10周年という節目の
年でした。さて、当院の今年はどんな年になりますか……(広報委員 林)



平成28年1月1日発行
にじ1月号(第123号)
毎月発行
編集者:広報委員会
発行者:吉川 清志
印 刷:株式会社 高陽堂印刷
発行元:
高知県・高知市病院企業団立
高知医療センター
〒781-8555 高知県高知市池2125-1
TEL:088(837)3000(代)

広報誌「にじ」に関するご要望・ご意見をお寄せください。renkei@khsc.or.jp